

令和8年10月28日開催
調 査

総務教育常任委員会資料

○調査事件2 義務教育学校の設置に向けた取組について

教育委員会

調査事件２ 義務教育学校の設置に向けた取組について

１ 前回調査以降の取り組み状況

前回常任委員会以降の動きについては、下表のとおりとなっています。

○取り組み状況（準備委員会関係は、別掲）

月 日	項 目
４月２７日（月）	総務教育常任委員会②
５月 １日（金）	福島小学校ＣＳ（コミュニティースクール）に報告
５月 ８日（金）	福島中学校保護者向け説明会
〃	福島中学校ＣＳ（コミュニティースクール）に報告
５月１２日（火）	福島アカデミーで教職員向け研修会 （講師：七飯町教委 檜山指導主事（大沼岳陽学校初代校長））
５月１８日（月）	先進地視察（大沼岳陽学校・戸井学園） （教育委員会事務局３名・小中学校長３名）
６月１０日（水）	福島小校区の地域住民へ説明（１１名出席）

※ＣＳ（コミュニティースクール）

ＰＴＡ代表、地域代表３名、教育委員会及び学校関係者で組織し、地域に開かれた学校づくりを目指す会議

２ 義務教育学校開設準備委員会について

(1) 委員構成等

①目的：義務教育学校の基本事項等について、具体的に検討する組織

②委員構成：１２名

- ・町内小中学校長 ３名
- ・町内小中学校ＰＴＡ会長 ３名
- ・各小中学校コミュニティースクール代表 ３名
- ・町内会連合会 １名
- ・福島保育所保護者会 １名
- ・福島幼稚園保護者 １名

③これまでの動き

月 日	協議項目
6月15日（月）	委員長等の選任、今後のスケジュール確認
7月14日（火）	新学校名の公募について
9月 8日（火）	校名の公募結果及び候補案について
10月20日（火）	校名の最終候補案について

(2) 専門部会～3部会を置き、専門的に検討しています。

①教職員部会

- ・検討項目：教育課程、部活動、交流学习、通学計画等
- ・これまでの動き

月 日	協議項目
7月23日（木）	協議項目及び今後のスケジュール確認

②PTA部会

- ・検討項目：学校名・校歌・校章、学校教育目標、閉校関係等
- ・これまでの動き

月 日	協議項目
7月13日（月）	協議項目及び今後のスケジュール確認 新学校名の公募について
9月 1日（火）	新学校名の公募結果と候補案について

③事務部会

- ・検討項目：施設利用計画、学校施設建設、財産処分、条例改正、会計等
- ・これまでの動き

月 日	協議項目
7月14日（火）	協議項目及び今後のスケジュール確認

④校長会

- ・校長会においても、義務教育学校における学校の土台となる「校訓」「学校教育目標」「目指す児童生徒像」を策定するにあたって、全校児童生徒、教職員及び地域住民等を対象とした「みんなの学校創りアンケート」を実施しております。結果については、資料1のとおりとなっております。

3 新学校名について

新学校名については、準備委員会での協議により公募することとし、7月15日から8月7日までの期間で募集した結果、98件の応募がありました。（応募結果は資料2のとおり）その中からPTA部会及び準備委員会にて5つの候補案へ絞り込みを行っております。その後、5つの候補案について、それぞれの名前に込められた思いを町内小中学校の児童生徒に示したうえで、児童生徒全員を対象に投票を実施しております。その結果、5つの案いずれも過半数の得票率に達しませんでしたので、上位2案による決選投票を実施した結果、「海峡みらい学園」が最多得票を獲得しております。

なお、候補案と投票結果は、次のとおりとなっております。

案	校名	学校名に込めた思い
1	福島結和学園 (ふくしまゆうわがくえん)	小学校と中学校、学校と地域、人と人とのつながりを大切にし、調和と思いやりの心のもとで、ともに学び成長していく願いを込めました。
2	海峡みらい学園 (かいきょうみらいがくえん)	津軽海峡に面した町の特徴を活かし、海のように広い心と未来へ羽ばたく子供たちをイメージしました。
3	海峰学園 (かいほうがくえん)	福島町の豊かな自然「津軽海峡」と「秀峰 大千軒岳」のように、広い心と高い志をもち、ふるさと福島町を愛して、未来を切り拓く児童生徒へと成長してほしいという願いを込めました。
4	峰翔学園 (ほうしょうがくえん)	千軒の峰を翔る風のように向上心に満ち、力強い子供達が育つ学舎となって欲しい。 峰は、嶺・峯より常用漢字として用いられ、自身の学校名を漢字で書ける目標として無理がなく発音もしやすい。気高い心持ちを手助け出来、また卒業生が母校を誇りと思える校名となって欲しい。
5	海峡の杜学園 (かいきょうのもりがくえん)	青函トンネルや津軽海峡を象徴する「海峡」と、豊かな山・川・海の自然を表す「杜」を組み合わせました。福島町の自然や歴史、文化を大切に受け継ぎながら、子どもたちが地域とともに学び、未来へ力強く羽ばたいてほしいという願いを込めています。

○投票結果

1回目

番号	校名	得票率
1	福島結和学園	32.6%
2	海峡みらい学園	41.1%
3	海峰学園	8.5%
4	峰翔学園	10.9%
5	海峡の杜学園	7.0%

2回目

番号	校名	得票率
1	福島結和学園	36.6%
2	海峡みらい学園	63.4%

併せて、PTA部会より校名の前に「福吉」という文言をつける投票も行っており、ほしいとの提案があり準備委員会でも了承したうえ、校名の投票と併せて賛否を問う投票も行っております。結果は、つけなくてもよいが過半数を超える結果(56.6%)となりました。

いずれの投票結果も、10月20日に開催した準備委員会に報告し協議した結果、児童生徒の投票結果のとおり「海峡みらい学園」を最終候補案とすることに決定いたしました。

今後は、この結果を教育委員に報告し、教育委員会において、最終的な学校校名を決定し、議会へ福島町立学校設置条例の改正案を上程することとなります。

4 学校施設の整備について

① 校舎整備に関する基本計画策定について

校舎位置については徒歩通学児童生徒数や、まとまった教育環境を考慮すると、福島小学校及び福島中学校敷地を活用することが最も合理的であると考えております。

当初は福島小南校舎の建て替えを検討しておりましたが、厳しい町財政のため福島小学校または福島中学校を大規模改修することにより、よりよい教育環境の整備に努めてまいりたいと考えております。

今後とも使用可能な屋内運動場、グラウンドや学校給食センターを含め、どのような施設利用が最も効果的か検討するため、義務教育学校整備基本計画策定業務を今後委託発注することにしております。

なお、令和10年4月の義務教育学校開校時には、改修しないもう一方の校舎を改修が終わるまで使うこととします。そのため令和9年度に義務教育学校への移行に伴う最低限の修繕を実施します。

また、人口減少への対応が町の重要な課題となっていることを踏まえ、計画

策定においては使用しないこととなる校舎の活用方法や、その他の社会教育施設の在り方も含めて検討してまいります。

② 財源の確保について

財政状況の厳しい福島町にとって、財源の確保は最も重要となります。

文部科学省の公立学校整備負担金及び学校環境改善交付金は補助率が1／2となっているものの、補助単価が実勢価格よりも低く定まっており、事業費ベースでみた場合、改修事業費の2割から3割程度の交付額に留まる見込みとなります。

そのため、財政的に有利となる交付税措置のある起債を借入することで、町の負担を軽くすることが重要となります。具体的には、過疎債や緊急防災・減災事業債、補助事業債の活用が見込まれます。

5 今後のスケジュールについて

令和8年度	・新学校名の決定 ・校訓・学校教育目標・目指す児童生徒像の設定 ・校歌、校章等の検討 ・学校施設整備に係る基本計画の策定（令和9年度7月まで）
令和9年度	・教育課程の編成準備、交流学习の実施 ・校歌、校章等の決定 ・吉岡小学校、福島小学校、福島中学校の閉校式 ・学校設置条例の改正 ・校舎整備に係る基本設計
令和10年度	・義務教育学校開校（現在の福島小、又は、福島中校舎を使用） ・校舎改修に係る実施設計
令和11年度 令和12年度	・校舎改修工事
令和13年度	・改修後校舎での授業開始